

[認知症対応型共同生活介護用]

調査報告概要表

作成日 20年 1月19日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 4675100111
法人名	(有)フェルナンデス
事業所名	グループホーム ひだまり
所在地	鹿児島県伊佐郡菱刈町1154-4 (電話) 0995-24-1688

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5 前田ビル1F
訪問調査日	平成 19 年 1 月 19 日

【情報提供票より】19年12月8日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 13 年 11 月 6 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	7 人	常勤 5 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	6.6

(2)建物概要

建物構造	木造モルタル 造り		
	1階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4)利用者の概要(12月8日現在)

利用者人数	名	男性 0 名	女性 6 名
要介護1	名	要介護2	1 名
要介護3	5 名	要介護4	名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 86 歳	最低 79 歳	最高 96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	羽月坂元医院 整形外科松元病院 こうき歯科
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

民家を改築した建物は、懐かしく温かい感じがあふれる雰囲気である。その中で利用者は、庭の畑でとれた野菜を使って料理をしたり、趣味の時間を楽しんだりしつつ、のんびりと暮らしている様子が表情や話しぶりから推察される。近くには同法人が運営する訪問介護事業所と宅老所があり、人員が不足しがちな時間帯をそれぞれの職員が補ったりしながら、安定的な運営を行っている。開設から5年が経ち、職員の認知症ケアに対する思いがさらに強くなり、利用者とのかかわり方、記録のとり方等、スキルアップにつながるような様々な提案や意見がでるようになってきている。現在このような声を参考にしながら研修体制を整える計画があり、今後の運営にさらに期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	利用者の権利について、わかりやすく記載した文書を作成し利用者に配布している。栄養面については、それぞれの利用者の身体的な問題等に応じて、栄養の専門的な観点から助言を受けながら対応するよう取り組んでいる。職員研修について、新規採用の職員養成のカリキュラムを作成し、段階に応じた人材育成に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	すべての項目について職員で読みあわせをしながら、普段のケアを立ち返るきっかけにしている。今回の自己評価は現在の問題点や課題、それに対する対策について話し合う重要な機会になっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には、民生委員等の地域代表・家族会代表・行政担当者・事業所管理者や職員などが出席し、ホームの現状を報告した上で、今後のホームの役割について意見交換を行っている。これらの意見を受け、ホームの行事のあり方などについて今後職員で検討する予定である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	普段から家族に声をかけるようにし、意見等を気兼ねなく話せる雰囲気作りに努めている。第三者委員を設置しており、家族がいろいろな方法で意見を話せるように取り組んでいる。出された意見は職員で検討し、速やかに改善している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地区の夏祭りやスポーツ大会の応援などに参加し、近隣住民と交流する機会がある。また、小学生の人形劇などを鑑賞することもあり、世代間交流も行っている。しかし、現在、ホームに地域住民が訪ねてくることができるよう機会がほとんどない。介護相談などができる「サロン」の開設を検討しているとのことであるので、今後の取り組みを期待したい。

調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	現在の事業所の理念は「地域の中でその人らしく暮らし続けること」に視点をあてた内容になっていない。	○	現在、地域密着型サービスとしての理念(言葉や表現)を職員で検討中である。職員で地域の中で暮らし続けることの大切さを再認識するとともに、その考えを反映させる理念をつくりあげていくことを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域密着型サービスとしての理念は、おおまかには出来ているが、言葉や表現が出来ていない。しかし、理念の内容や意味について職員がしっかりと考え、それを理解する機会を設けている。職員はそれを具体的なケアにいかしていけるよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の夏祭りやスポーツ大会の応援などに参加し、近隣住民と交流する機会がある。また、小学生の人形劇などを鑑賞することもあり、世代間交流も行っている。欲を言えば、ホームに地域住民が訪ねてくること出来るような機会があれば、地域との交流も今以上に発展するのではなかろうか。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	すべての項目について職員で読みあわせをしながら、普段のケアを立ち返るきっかけにしている。今回の自己評価は、現在の問題点や課題、それに対する対策について話し合う重要な機会になっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、民生委員等の地域代表・家族会代表・行政担当者・事業所管理者や職員などが出席し、ホームの現状を報告した上で、今後のホームの役割について意見交換を行っている。これらの意見を受け、ホームの行事のあり方などについて今後職員で検討する予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険に関する質問や家族とのトラブルに関する質問などを行いながら情報交換をする機会がある。また、必要に応じてホームが知っていた地域住民の情報を提供することもあり、地域の福祉ニーズの把握にも協力し、お互いに連携をとりながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会を利用して、家族に写真をみてもらいながら生活の様子を知らせるのはもちろんのこと、年に2-3回はホームの新聞を作成し、全体の暮らしぶりについても定期的に連絡している。収支報告は一月に1回必ず書面で行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から家族に声をかけるようにし、意見等を気兼ねなく話せる雰囲気作りに努めている。第三者委員を設置しており、家族がいろいろな方法で意見を話せるように取り組んでいる。出された意見は職員で検討し、速やかに改善している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	顔なじみの関係を大切にケアを行うため、職員の異動は極力ないように努めている。やむを得ず退職等がある場合は、利用者に与える影響に最大限配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修として、1ヶ月に1回テーマを決めて勉強会をしている。外部の研修に出席した場合は報告会を行い、内容を周知している。採用時には独自のプログラムを作成し、職員の育成に取り組んでいる。今後は、職員が希望する研修テーマを参考にしながら研修計画を立てたら、尚一層良いのではなかろうか。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域において「地域密着型サービス協議会」を立ち上げている。勉強会を行ったりするだけでなく、職員間の意見交換や交流の場になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人だけでなく家族とも頻りに面会を行い、家族と協力しながら利用者が馴染むことができるよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は「介護をする」という一方的な立場にならないよう、互いに支えあい、喜びや悲しみを共有できるような関係作りを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの様子や好きなもの、職員の気づきなどを時間をかけて聞き取り、丁寧に記録することにより、それぞれの希望や意向の把握に職員一体となって積極的に取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に1回は支援の方向性の確認、プラン見直しの必要性などを職員全員で話し合っている。また、普段から本人や家族から希望・意向などを聞くようにし、様々な意見やアイデアを反映させながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	普段から現状の把握に応じて、本人・家族・職員が常にプランの見直しの必要性を含めた支援の方向性を確認している。必要がある場合は速やかに介護計画を見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診などが必要な場合は柔軟に対応している。墓参りや買い物などの希望がある場合も同様に、できる限り対応するよう心がけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に入居前からのかかりつけ医に受診しているが、必要に応じてターミナルケアまで視野に入れてかかりつけ医を変更するなど、適切な医療がうけられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまで実際に看取りまで行ったケースがある。今後はより方針を明確にし、対応方法等についても職員と十分に検討し、重度化・終末期の対応に積極的に取り組んでいく予定である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに配慮した適切なケアが職員の中に徹底して浸透している。情報の管理についても適切に行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自然な生活の流れを大切にしつつも、職員側の都合ではなく、利用者の希望を優先できるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	みんなで野菜の皮むきをしながら、食材や味付けのことなどを話題にして会話が弾んでおり、大切なコミュニケーションの機会になっている。職員は利用者と同じものを同じ食卓で食べ、食事の時間を一緒に楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	それぞれの希望の時間帯をできる限り優先して、入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴をいかしながら、それぞれの役割をもったり趣味を楽しんだりしている。外出や散歩などの機会を設けることで、気晴らしができるように支援にも心がけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩など、日常的に外出する機会ができるよう心がけている。地域の行事にも参加し、事業所の中だけで過ごすことがないよう努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	これまで報知器を使わなければならないケースも短期間あったものの、現在は鍵をかけることなく、安全に配慮しつつも、自由に出入りできる状況ができています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣住民や消防署と連携をとりつつ、災害時にスムーズに対応できるよう普段から話し合っている。また夜間の火災等を想定した利用者の安全な場所への搬送方法についても確認している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量はおおむね把握できている。栄養面について特に注意が必要な利用者については、栄養士や医師の指示を仰ぎ、栄養の専門的見地からアドバイスをもらうなどの取り組みをしている。	○	メニューをみる限り、栄養のバランスにも十分配慮していることが伺えるが、特に問題がないと思われる利用者についても、カロリーや塩分摂取量などをだいたい把握すること、栄養の専門的視点から定期的にメニューをチェックする取り組みを期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家を改築したホームであり、どこも家庭らしい雰囲気である。生活感や季節感があふれ、居心地よく暮らせる工夫が多々してある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使っていたものや大切にしていた写真などを飾り、本人にとって居心地よい居室作りを行っている。民家を改修していることもあり、画一的な感じではなく、それぞれ特徴のある居室になっている。		